

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きつずTREE 児童発達		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2026年 1月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13人	(回答者数) 9人
○従業者評価実施期間	R8年 1月 5日		～ R8年 1月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者(児童)に対して丁寧な関わりができる。	本児の発達、特性に基づいてその日その時の体調、精神状態に考慮し対応している。	心理士や保育士など他職種の職員が関わることで利用者の観察をしたり、今後の展望を話し合いながら必要な課題を発見できる。
2	受け入れや送り出し時に、保護者と面接以外でもその日の様子を詳しく伝えている。	利用日の様子から家庭や園で何かしんどい事があったか(楽しいことがあったか)など話を聞き、利用児の頑張りを保護者に伝えるようにしている。	保護者の相談や心配事を聞いて、そのしんどさを受け止めようとしている。又本児の気持ちを推測し、保護者に伝えようとしている。
3	職員同士の密な連携が取れるところ。	職員がお互いの動きを見ながら、部屋でも死角がないようにしたり、関わりが少ない利用児がいないようにしている。	動きが少ない利用児に体を使った遊びを促したり、手先の器用な利用児には手先を使うような遊びや活動を取り入れている。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	低年齢児(2歳)職員の助けがることが多い。	利用児の発達年齢が2歳以下が多い。	利用児の年齢を引き上げる。又は入所時期をずらす。利用児の成長を見守りながら自分でできると言う自信を育むことができる関わりや言葉掛けがより必要と考える。
2	友達との関わりより、職員と関わることに楽しさを感じる利用児が多いので、友達とは平行遊びになり、1対1対応の利用児が多くなると対応職員の数があるが職員をこれ以上増やせない。	発達年齢が一人遊び(又は平行遊び)の利用児が多い為、二項関係から三項関係、対人との遊びに導くようにグループでの関わりを強化していく。	平行遊びをしながら、職員が遊びの中に入ることによって友達がどんなことをして遊んでいるのか興味を持てるような言葉かけをしていく。
3	両親共働き世帯が増えている為、送迎を希望されるご家庭が多いが送迎できる職員が不足している。一度に送迎できる人数が限られている。	一度に送迎できる人数が限られている。	ハローワークに求人を出す。